

## 第III章 性知識をめぐって



第II章で見て來たような進んだ性意識を支えている基盤には、彼らに入つて來る性情報の豊富さがあるのではなかろうか。学校での保健体育の授業はむろんのこと、テレビ、ラジオ、雑誌、友人との会話の中で、彼らはどう

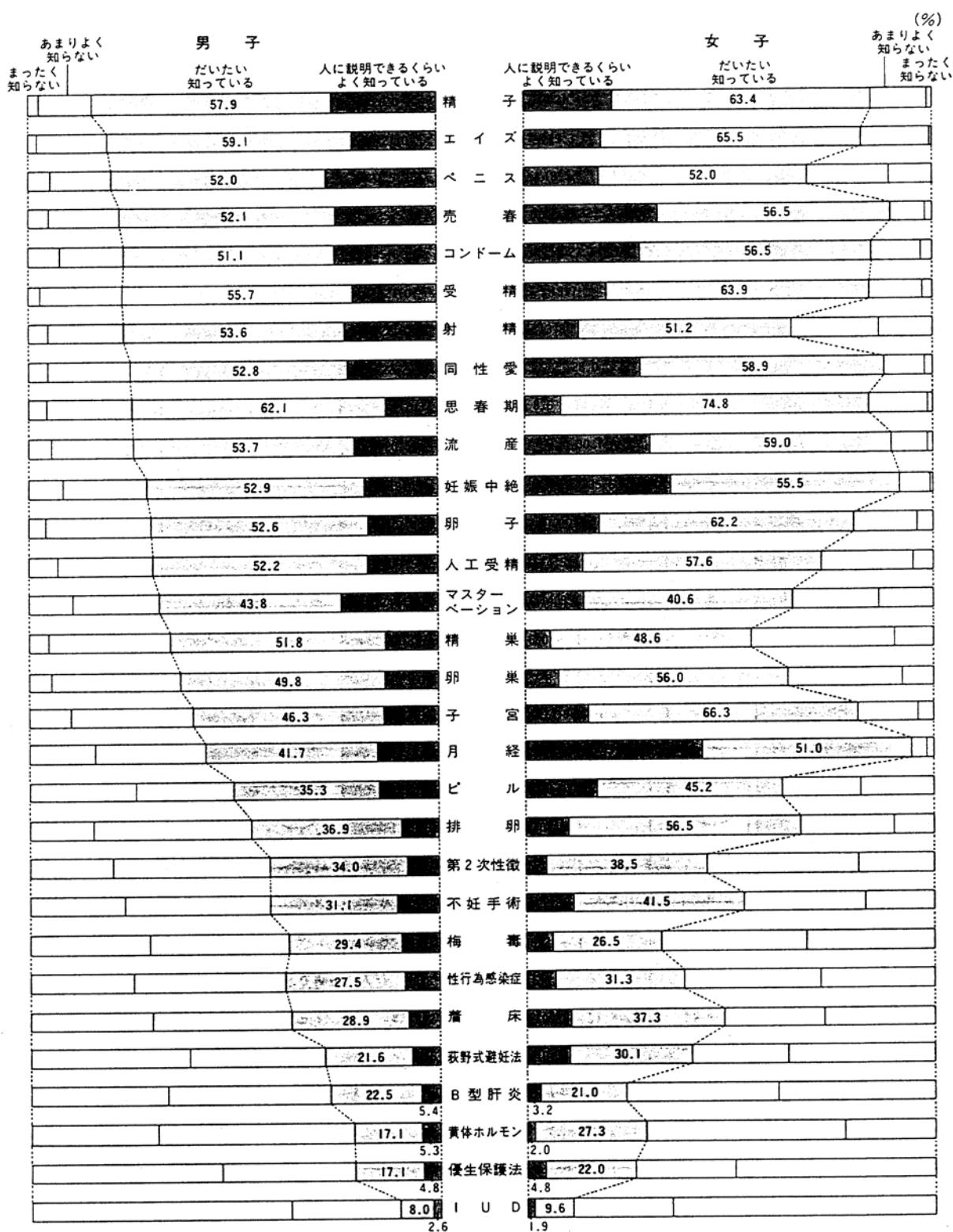
の程度の性知識をもっているか。そしてまた性的用語の使用にどの程度慣れ、またはそれにこだわりを残しているか。この章では、高校生の知識の実態と、主な情報源として雑誌とのかかわりを明らかにしていきたい。

### 1. 性的用語の理解

図III-1は「性を表現する言葉の理解度」を「精子・エイズ」など具体的な30項目でたずねたものである。男子では「精子・エイズ・ペニス・売春・コンドーム」などの理解度が高く、女子では「月経・妊娠中絶・売春・流産・同性愛」などをよく知っている者が多い。男女差では、例えば、「月経」について人に

説明できるくらいよく知っていると答えた者は男子で15.5%、女子で43.1%、「マスターべーション」については、男子24.4%、女子14.9%、「妊娠中絶」では男子18.0%、女子35.6%などがあげられる。このように部分的には知識上の性差があるものの、全体的印象としては男女とも大変よく知っており、また

図III-1 性的な言葉の理解度



男子より女子のほうが性的用語の理解度が高い傾向が見られる。

表III-1は性的用語の理解度を成績別に見たものである。男女とも成績上位群と下位群とでは知っている用語の種類が微妙に違っており、成績下位者の入手する性文化は「コン

ドーム・壳春・射精(男子)」「コンドーム・流産・壳春・妊娠中絶(女子)」などが代表するよう、ややウラ文化的なタイプであることがわかる。また成績上位者と下位者がこれらの用語に詳しく、中位者は男女とも知識がないのも面白い。

表III-1 言葉の意味の理解度×成績

男 子	(%)			女 子	(%)		
	上	中の上	中		中の下	下	
ニース	(33.7)	22.3	28.2				
精子	(30.8)	19.6	28.4				
コンドーム	28.6	16.4	(31.2)				
壳春	26.4	19.6	(30.0)				
マヌケ	26.1	18.8	(28.9)				
アリル	25.0	14.9	(27.0)				
アト	22.0	15.3	(26.1)				
エイ	(25.0)	14.3	23.9				
エイジ	25.0	14.4	(26.1)				
エロ	(26.1)	17.9	19.0				

月 経	上	中の上	中	中の下	下	(%)	
						男 子	女 子
月 経		(48.9)	36.3	46.0			
妊娠中絶		36.1	31.1	(40.5)			
壳春		34.1	28.3	(36.1)			
アリル		31.6	24.3	(35.1)			
同性愛		30.4	24.8	(31.0)			
コンドーム		28.1	22.1	(34.3)			
精子		(26.1)	15.7	25.1			
射精		(23.9)	18.4	18.0			
エイズ		(22.1)	15.3	21.0			
エロ		16.5	14.0	(18.1)			

(「人に説明できるくらいよく知っている」割合)  
上位 10位まで

## 2. 知識の情報源

では、彼らはどのような方法でこれらの言葉の意味を知るのであろうか。表III-2は「異性の体の構造と器官の名前」「避妊の知識や方法」「エイズ」を例にしてその情報源をたずねたものである。すべての項目に共通しているのが「友達・保健の授業・週刊誌」である。とくに大切な「避妊の知識や方法」では、男子は友達から44.5%、週刊誌から31.8%、

女子は友達から55.7%、週刊誌から51.7%の情報を得ている。正確な知識が最も必要である「避妊」の情報源が友達・週刊誌では、「正確さ」に不安がある。実際に高校生と話して常に感じるのは、その知識の不正確さである。高校の授業では、性に関することを扱っているのは保健である。今後人間としてのかかわりの中での異性との性的関係を考えると、避

表III-2 知識の情報源

(%)

	異性の体の構造・器官の名前		避妊の知識や方法		エイズ	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
友達	59.4	56.1	44.5	55.7	31.8	21.7
保健の授業	1.7	5.7	0.5	4.5	4.4	17.9
週刊誌	1.7	2.3	0.8	0.3	4.1	3.5
医療機関	68.2	74.1	42.8	48.2	27.1	22.9
本	1.9	7.2	1.9	3.9	2.2	2.0
インターネット	0.6	7.4	0.8	5.9	0.0	2.2
テレビ	30.1	27.6	26.2	23.1	82.3	84.2
音楽	35.1	47.3	31.8	51.7	32.6	44.6
雑誌	25.7	24.4	19.3	18.7	10.5	5.6
教科書	8.0	2.0	4.7	0.8	44.5	40.4
先生	8.8	5.3	7.2	5.2	6.1	3.2
友達の友達	10.8	4.9	22.9	9.3	6.1	2.7

妊の方法や知識も含めて総合的に指導する教科がもっと増えてよいのではないだろうか。

また今最も注目されている「エイズ」に関しては新聞・テレビのニュースなどマスコミを通して理解している傾向がある。女子については、母親から17.9%知識を得ているのが目をひく。しかし全体として見ると、高校生にとって父親・母親は性的な知識の情報源とはなり得ない無力な存在のように思われる。

表III-3は「性交」を正確に知った時期である。男子は中学1年生で37.3%知り、小学6年生から中学2年生までに75.2%の生徒が知るようになっている。女子では、中学1年生で33.9%を中心に、小学4・5年生から中学2年生までに89.8%の者が知ることになる。

表III-4は性交を知った方法である。ここでも「友達・保健の授業・週刊誌」が上位を占める。女子に母親が4.2%教えてている以外

両親は性的な知識の情報源にはなり得ていない。「性」に関することは本来家庭で教えられるべきものではないだろうか。昔、兄弟も多く、母親が家庭で出産した時代には、家庭での教育力も現在よりはるかにあったにちがいない。現在、子ど�数も減少し、母親は病院で出産するため子どもたちは、家庭で性的な学習をする機会が減っている。また表III-5は「母親の体のどの部分から子どもが生まれるか正確に知った時期」をたずねたものである。男子は小学校6年から中学2年までに75.2%が、女子は小学校4・5年から中学2年までに88.5%の生徒が知ることとなる。表III-6「知った方法」では、やはりここでも「友達・保健の授業・週刊誌」が上位である。ただしこの点については、母親が女子に教えていることが目立つ。

表III-3 性交を正確に知った時期

(%)

幼稚園の頃		小学校1年	4・5年	6年	中学1年	2年	3年	高校1年	2年	3年
男 子	2.5	0.8	9.9	14.7	(37.3)	23.2	9.3	1.4	0.3	0.6
女 子	0.2	1.9	(15.9)	21.3	(33.9)	18.7	5.5	1.9	0.5	0.2

表III-4 性交を知った情報源

(%)

	男 子	女 子
友 達	(57.7)	(66.0)
母 親	0.8	4.2
父 親	0.8	0.8
先 輩	14.6	7.9
保健の授業	(31.5)	(35.7)
養護の先生	0.6	4.3
家庭科の授業	0.8	4.2
テ レ ビ	16.3	23.9
週 刊 誌	(25.1)	(34.8)
漫 画雑 誌	13.0	14.3
ホ ル ブ 集 目	14.4	3.0
新 聞	4.1	1.0
雑 誌	3.8	1.7
其 他	4.6	5.7
	26.0	32.3

表III-5 母親の体のどの部分から子どもが生まれるかを正確に知った時期

(%)

	2.4	1.8	7.1	12.4	(34.0)	28.8	(10.0)	3.2	0.0	0.3
	0.5	1.7	(19.7)	21.5	(31.6)	15.7	5.8	2.6	0.9	0.0
				88.5						

表III-6 母親の体のどの部分から子どもが生まれるか  
を正確に知った情報源

(%)

	口頭	書面
	(46.4)	(46.5)
	3.3	18.9
	0.6	0.8
	11.0	5.1
	(30.4)	(40.9)
	1.1	5.2
	0.8	5.4
	15.7	17.7
	(23.2)	(24.9)
	8.0	6.2
	9.7	1.0
	4.1	1.7
	4.7	1.5
	5.2	4.2
	23.8	24.2

### 3. 性の悩み

性的な発達には、個人差が大きい。そのため高校生でもひそかに悩みを抱えている場合が多い。しかし性的な悩みは表面に出しにくい。では、彼らは性的な悩みをもったとき、どのように解決しているのだろうか。

表III-7は「性に関する体の悩み」、「異性とのつきあいの悩み」を誰に相談するかたずねたものである。男女とも専ら「友達」に相談しており、一部女子が体の悩みについて母親

(16.0%)に相談し、異性とのつきあいの悩みについて男子が先輩(3.6%)女子が母親(7.9%)と相談しているほかは、数字はゼロに近い。また「誰にも相談しない」が圧倒的に多く、とくに体の悩みを相談しないと答えた者は、男子の75.4%、女子の50.7%にも達している。これでよいのだろうか。毎日生徒と接している教師たちはどうしているのだろうか。

表III-7 憋みの相談

	性に関する悩み		異性とのつきあいの悩み	
	男子	女子	男子	女子
友達	(14.6)	(33.3)	(33.4)	(68.0)
親類	1.4	2.5	3.6	9.1
先生	0.8	16.0	1.9	7.9
先輩	1.1	0.7	0.8	0.7
後輩	0.8	0.5	0.3	0.0
先生の夫婦	0.0	1.0	0.8	0.5
友達の夫婦	0.3	0.2	0.3	0.2
先生の子供	1.4	0.7	0.8	0.3
友達の子供	0.0	0.0	0.6	0.0
母親	0.0	0.5	0.6	0.3
其他	75.4	50.7	58.8	26.3

表III-8は教師に「性に関する相談を生徒からされたことがあるか」だが、ほとんど相談を受けていない。このことは前の表III-7でも見たとおりである。では教育相談はどうに行われているのだろう。「かなり熱心にしている」者も2割近く。「ときどき」を合わせると男性教師の75.5%、女性教師の83.9%が、教育相談に当たっている(表III-9)。しかし教師と生徒の間には、他の領域のこと以上に、性に関する感覚や価値観のズレがあり、教師間の個人差も大きい。そのため双方で敬遠してしまうのだろうか。また「性」は生徒の最も個人的なことであり、介入すべき

でないと判断している教師も多い。また、性的な問題が起こってしまった後に相談されても、教師の力では十分に対応できないので、生徒も相談相手としての信頼感を抱けないのかもしれない。

表III-10は、教師の性教育への取り組みであるが、全体としては見事なほど行われていない。もっとも表III-11に見られるように、教師自身が、大学、高校ともにほとんど性教育の授業を受けていないのだから、教えたくとも教えようがなく、つい「プライバシーの問題だから」と逃げる口実を作ってしまうのかも知れない。

表III-8 教師は生徒から性に関する相談を受けるか  
(%)

	ない	ある	ときどきない
男教師	0.0	20.9	79.1
女教師	3.2	35.5	61.3

表III-9 教師の教育相談  
(%)

	ない	ある	ときどきない
男教師	18.0	57.5	24.5
女教師	19.4	64.5	16.1

表III-10 教師の性教育

(%)

	かなり熱心にやっている	ときどきやっている	ほとんどやっていない
男子	2.2	18.1	(79.7)
女子	6.5	19.4	(74.1)

表III-11 教師の受けた性教育

(%)

	高校の授業	専門大学の授業
男子	9.4	9.4
女子	9.7	3.3

(「受けた」割合)

## 4. 性的用語の市民権

現在、性教育を熱心に進めている人びとの間ではしばしば「性をオープンなものに」「性にこだわりをなくす」「性を特別視しないで」という主張がなされるようである。しかし筆者らは少し違った見解をもつていて、過度のこだわりを排除すべきなのは当然としても、どの程度こだわりを残すことを礼儀の問題として人びとが適切と考えるか、その心情からくる文化の差を無視してはならないと考える。

北欧はしばしば性解放の先進国とされるが、北欧の人びとの性への感覚と、日本人との間には、歴史的、文化的、民族的に違いがあつても当然だろう。どこまでが不必要なこだわりで、どこからが必要なこだわりか、これからそれを見極めていく作業が必要になってくるのではなかろうか。

ともあれここでは、そうした性的用語に人びとがどのくらいこだわりをもつか、明らかにしてみよう。昔から性に関する言葉を人の前で話すのは下品なこと、たしなみのないこととする文化が日本では一般的だった。しかし現代は生理用品がCMに登場する時代になったのである。いつの日かコンドームのCMも登場する日が来るのだろうか。まず図III-2は「親しい友人とおしゃべりするとき、性的な言葉を抵抗なく言えるか」たずねたものである。男子では、「わき毛」「キス」「壳春」「セックス」「同性愛」などの言葉は比較的抵抗なく話しており、女子では、「キス」「壳春」「妊娠中絶」「生理」などに抵抗がないようである。女子で抵抗のある言葉としては、「ペニス」「性交」「射精」「マスター

「ペーベーション」など直接性的関係をイメージする言葉が多い。また、「セックス」「性交」は同じ意味を表しているが、「セックス」のほうが抵抗がないようである。しかしこのあたりの感覚は、年代によってずいぶん違うようである。

この点を見たのが図III-3、図III-4である。大学生・教師と比較すると意外にもいちばん抵抗を示しているのが高校生である。生まれた年代が若いほど性的用語にオープンであるとは限らないことがわかる。むしろ高校生は性的刺激に極めて敏感な時代にあり、かえって年齢の上の人びとより、性的用語にこだわりを示すのかもしれない。また第II章の「意見」の部分では大学生が最も過激な反応を示し、教師集団との間に大きな開きがあった。しかしここでは両者の差が極めてわずかである。大学生も教師も性的用語について敏感さを失っていることは、それが性体験によってもたらされた「こだわりの減少」なのかも知れない。この点をまとめたのが、表III-12である。

また高校生の場合、こうした用語を使えるかどうか母親との会話の場と、仲のよい友人との場とで比較してみたのが図III-5、図III-6である。図III-5に示したように、女子より男子のほうに、母親と仲よしの友人との間での抵抗感の差が見られる。この年齢になると、父親は男の子の友人代わりにはなれても、母親はなれないことが示されている。また図III-6の女子の場合も「生理、生理用品、

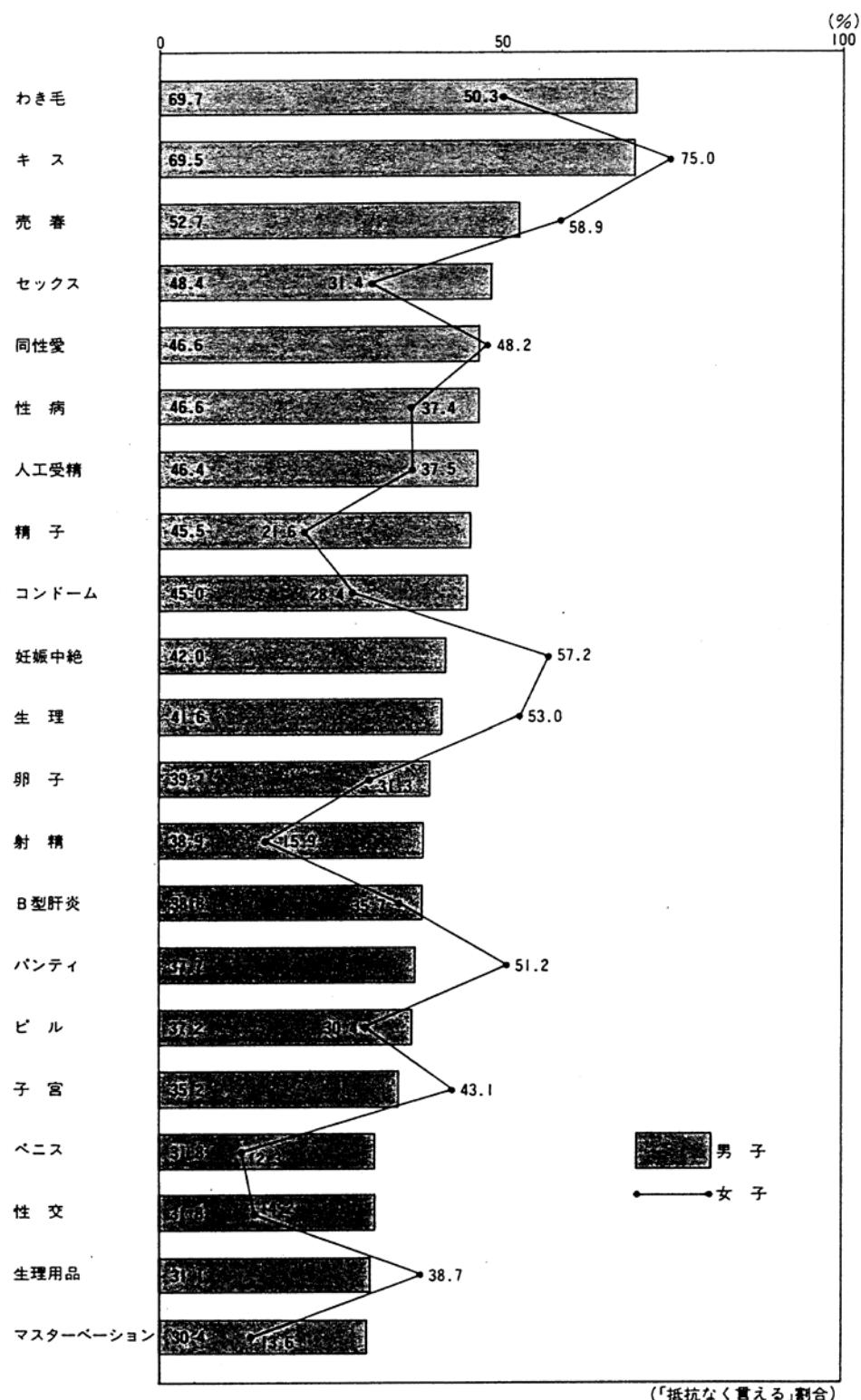
パンティ」を除いてはすべて母親より友人との間のほうの抵抗感が少ないことがわかる。女子の場合でも、母親が友人の代わりにはなれないことが示されている。

また表III-13、表III-14は両親の学歴との関係である。表III-13が示すように、母親との会話で性的に抵抗感なく話せるのは、男子では母親の学歴が低いほど、女子では逆に学歴の高い母親との間で、フランクに話しているのは面白い。

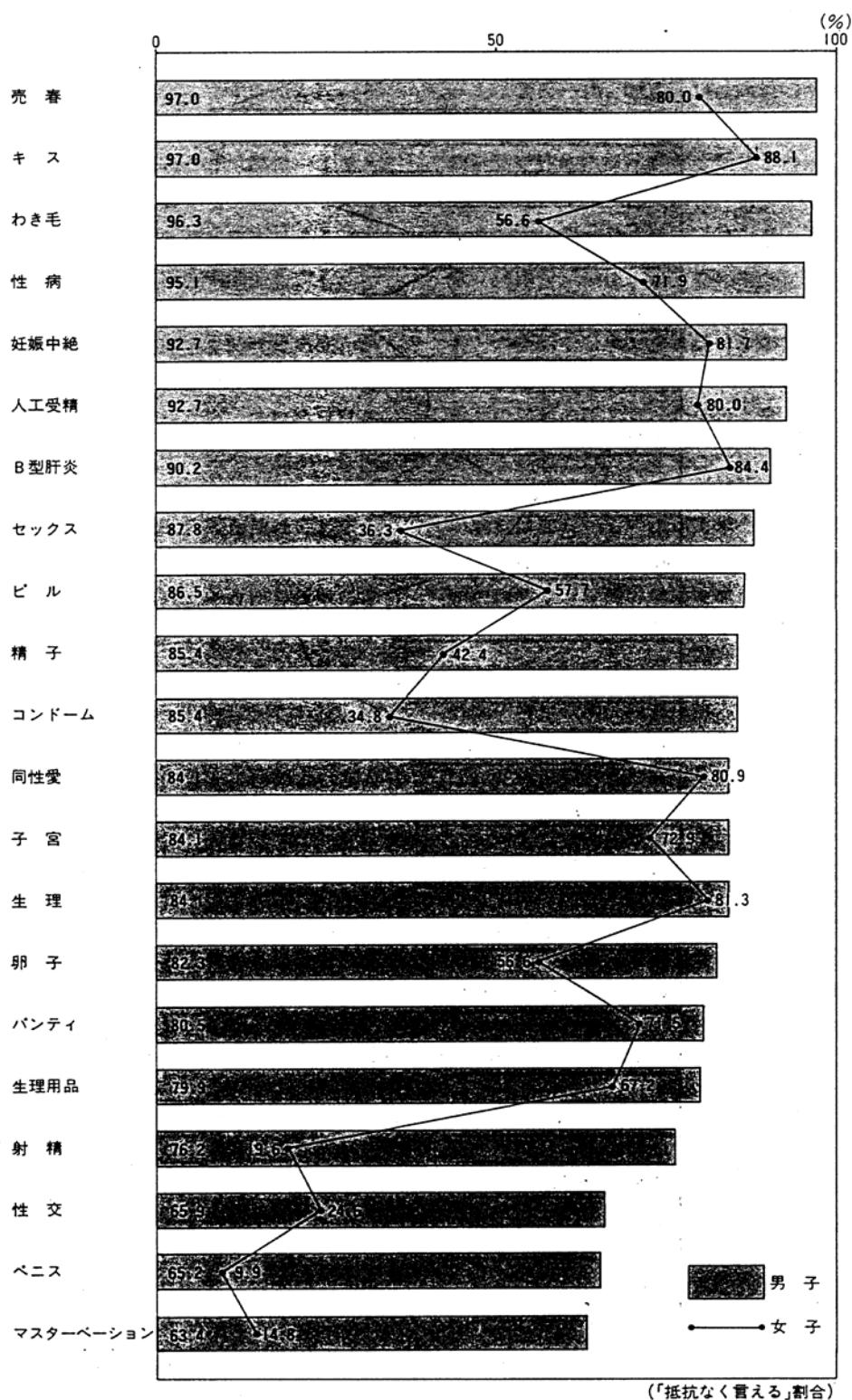
また両親の学歴との関連では、仲よしの友人との会話でフランクに話せるのは女子は低学歴の父親の下で育った場合、男子は逆に高学歴の父親の下で育った場合と全く逆の方向を示す。また母親の学歴では、男子に低学歴の母親の下で育った場合に抵抗感がない。その解釈は面白いものが出て来そうである。

またついでに表III-15は、先に見た性的用語の理解度と両親の学歴を見た結果である。男子においては、よく知っている言葉10項目について、父親の学歴の低い家庭の生徒の理解度が高い。逆に母親は短大卒業以上の高学歴の場合が理解度が高い。他方女子においては、父親母親ともに高校卒業程度の学歴の親の生徒がよく知っている。このように性のかたちは一つの文化であり、家庭では、日常会話の中に「性的な話題」がどのくらい登場しているかは、学歴を初めとして、両親のそれぞれの属性によって規定され、それが生徒の性意識、性知識、性行動に大きな影響を及ぼすと考えられる。

図III-2 性的な言葉への抵抗感 一仲のよい友達としゃべるとき

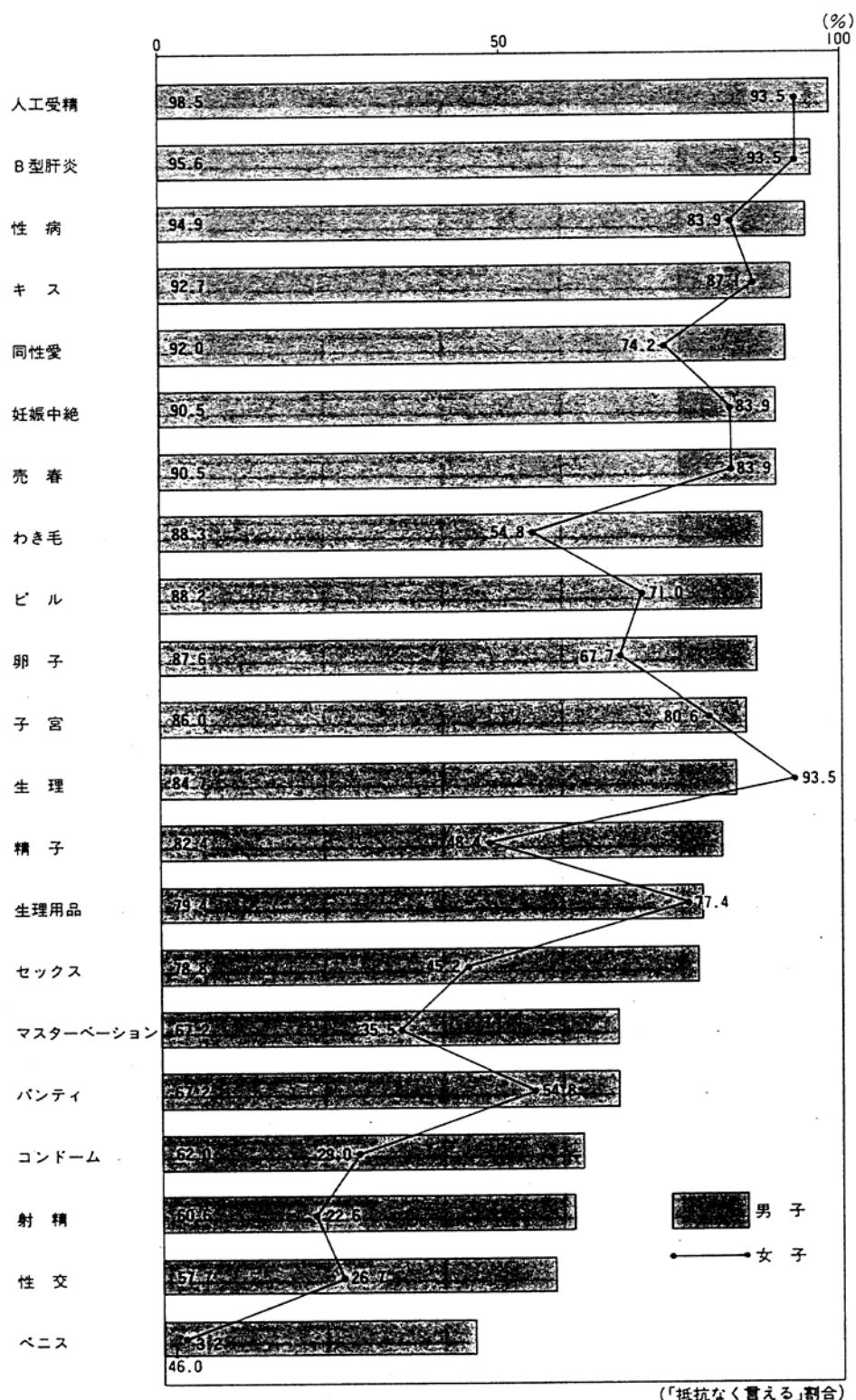


図III-3 大学生の性的な言葉への抵抗感  
—仲のよい同性の友達としゃべるとき—



図III-4 教師の性的な言葉への抵抗感

—親しい仲間としゃべるとき—



表III-12 性的な言葉への抵抗感×属性・性差

—親しい友達(仲間)としゃべるとき—

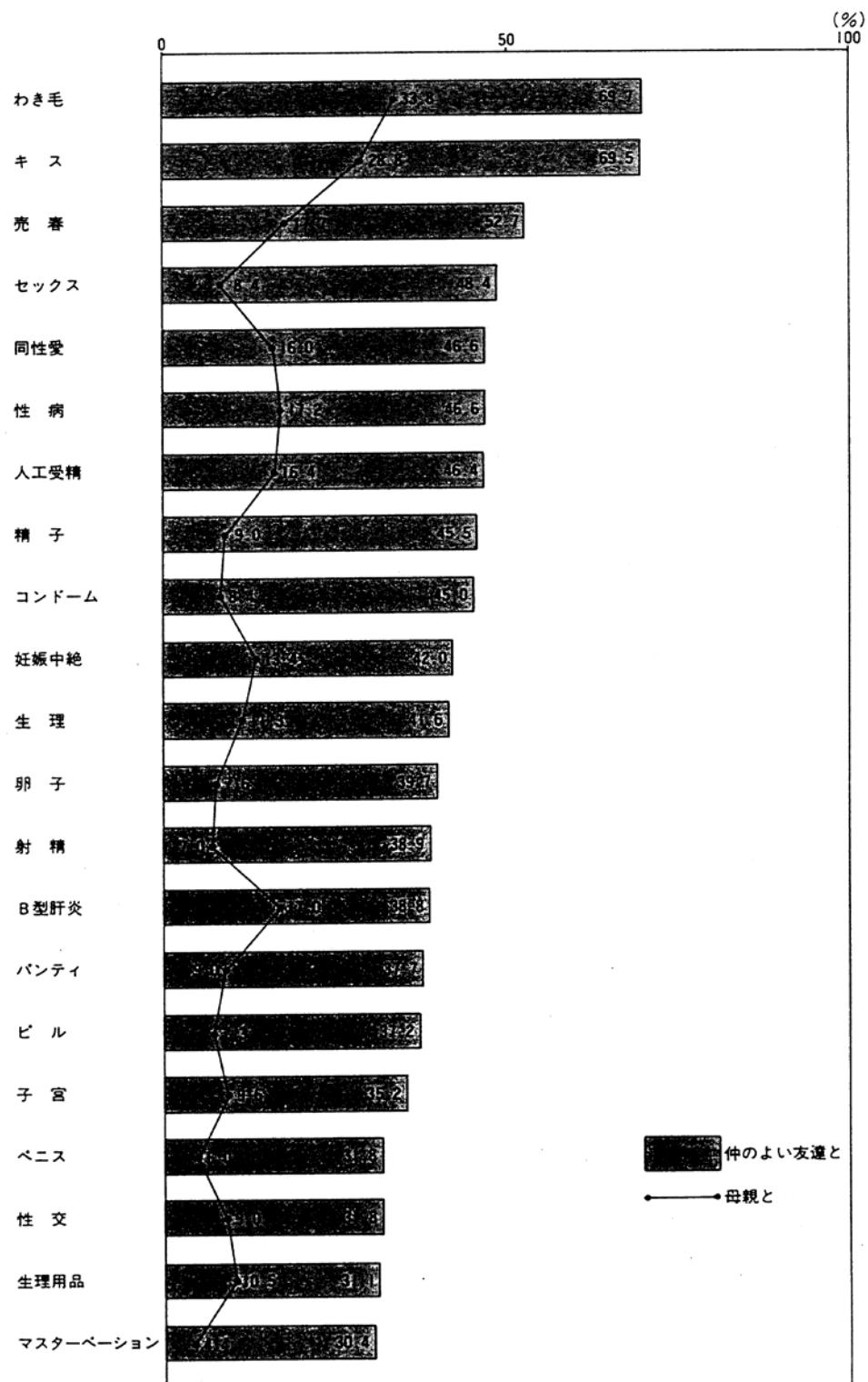
(%)

	男 子			女 子		
	高 校 生	大 学 生	教 師	高 校 生	大 学 生	教 師
生理用品	31.1	79.9	79.4	38.7	67.2	77.4
同性愛	⑤ 46.6	84.1	⑤ 92.0	48.2	⑤ 80.9	74.2
娘子	45.5	85.4	82.4	21.6	42.4	48.4
妊娠中絶	42.0	⑤ 92.7	90.5	③ 57.2	③ 81.7	⑤ 83.9
コンドーム	45.0	85.4	62.0	28.4	34.8	29.0
レズ	37.2	86.5	88.2	30.4	57.7	71.0
男装	③ 52.7	① 97.0	90.5	② 58.9	80.0	⑤ 83.9
マニス	31.8	65.2	46.0	12.3	9.9	3.2
B型肝炎	38.8	90.2	② 95.6	35.7	② 84.4	① 93.5
性交	② 69.5	① 97.0	④ 92.7	① 75.0	① 88.1	④ 87.1
性器	38.9	76.2	60.6	15.9	19.6	22.6
性行為	⑤ 46.6	④ 95.1	③ 94.9	37.4	71.9	⑤ 83.9
性交	30.4	63.4	67.2	13.6	14.8	35.5
性器	35.2	84.1	86.0	43.1	72.9	80.6
性行為	37.7	80.5	67.2	⑤ 51.2	71.5	54.8
性交	41.6	84.1	84.7	④ 53.0	④ 81.3	① 93.5
性器	31.8	65.9	57.7	14.2	24.6	26.7
性行為	39.7	82.3	87.6	31.3	56.6	67.7
性交	① 69.7	③ 96.3	88.3	50.3	56.6	54.8
性器	46.4	⑤ 92.7	① 98.5	37.5	80.0	① 93.5
性行為	④ 48.4	87.8	78.8	31.4	36.3	45.2

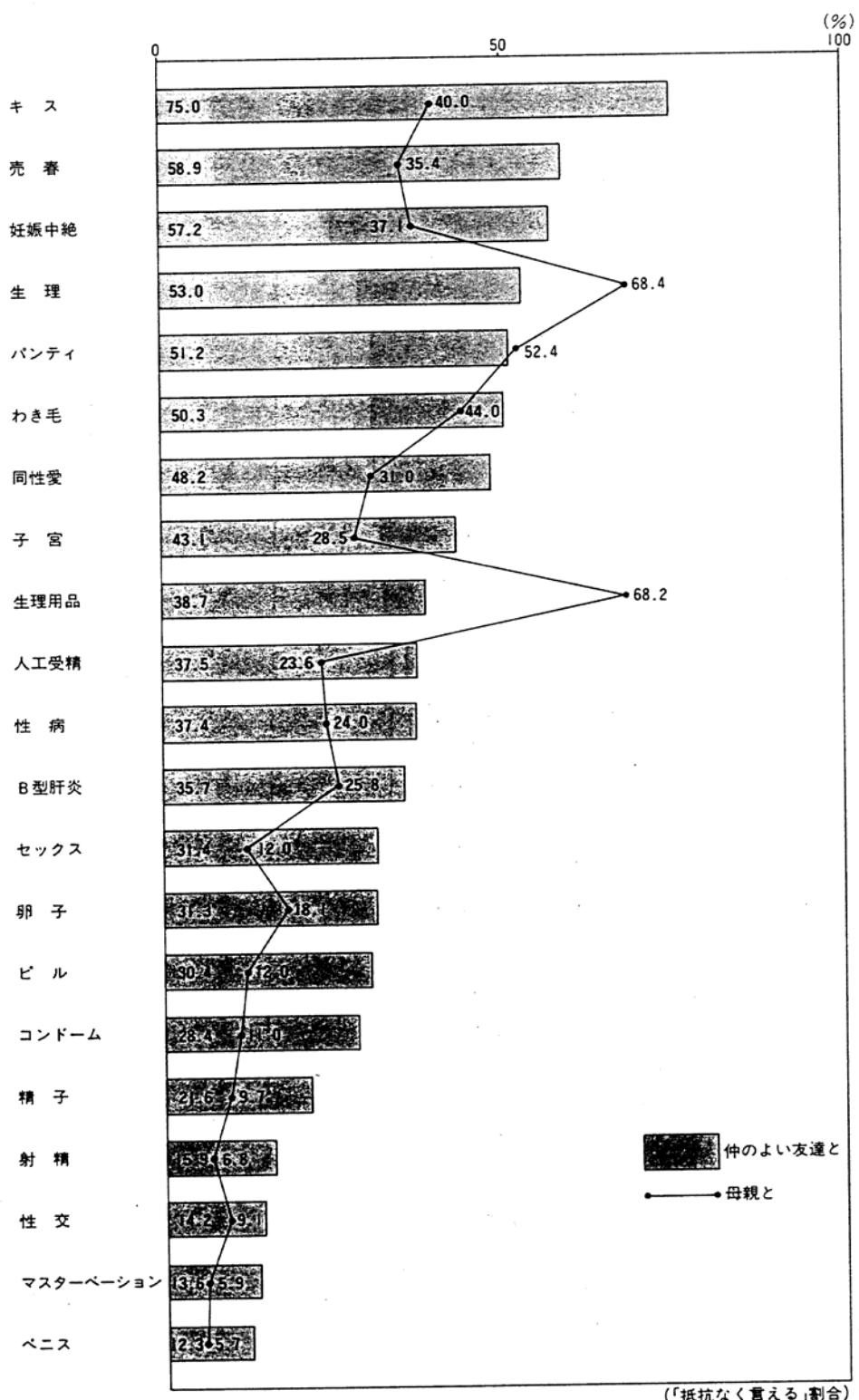
(「抵抗なく言える」割合)

○=順位

図III-5 性的な言葉への抵抗感×対象(男子)



図III-6 性的な言葉への抵抗感×対象(女子)



表III-13 性的な言葉への抵抗感×母親の学歴  
—母親とおしゃべりするとき—

男 子

(%)

	全 体	小・中・高卒	短大卒	大卒 大卒以上
わき毛	33.8	(34.7)	30.8	26.1
ギンスター	28.8	(30.2)	15.4	21.7
亮 春	17.7	(19.0)	15.4	8.7
性 痘	17.2	(17.9)	7.7	8.7
B型肝炎	17.0	16.8	15.4	(21.7)
人工受精	16.4	(17.2)	7.7	13.0
同性愛	16.0	16.3	0.0	(21.7)
妊娠中絶	13.4	(14.7)	7.7	8.7
生理	11.3	(12.3)	7.7	4.3
生理用品	10.5	(11.9)	0.0	8.7

女 子

(%)

	全 体	小・中・高卒	短大卒	大卒 大卒以上
性 痘	68.4	69.5	62.5	(78.3)
性 行為	68.2	68.6	65.2	(78.3)
性 器	52.4	53.2	37.5	(60.9)
性 亂	44.0	45.6	29.2	(50.0)
性 分	40.0	39.5	37.5	(50.0)
性 亂	37.1	37.3	37.5	(40.9)
性 亂	35.4	35.9	29.2	(45.5)
性 亂	31.0	32.6	25.0	(40.9)
性 亂	28.5	29.7	20.8	(40.9)
性 亂	25.8	25.9	16.7	(54.5)

(「抵抗なく言える」割合)  
(言える割合の高いもの 1~10位まで)

表III-14 性的な言葉への抵抗感×両親の学歴  
—仲のよい友達としゃべるとき—

男 子

	(%)				
	小・中・高・短大卒	大卒・大卒以上	小・中・高卒	短大・大卒	大卒・大卒以上
おじいちゃん	69.1	(77.0)	71.1	69.2	(77.3)
おじやん	69.4	(73.0)	(71.8)	69.2	59.1
お父さん	51.8	(59.5)	(55.9)	46.2	45.5
お母さん	(50.0)	48.6	(30.4)	20.8	27.3
お姉さん	45.7	(56.2)	(50.6)	46.2	36.4
お兄さん	46.8	(52.7)	(51.6)	38.5	31.8
お姉ちゃん	46.4	(53.4)	(49.8)	46.2	45.5
お兄ちゃん	47.0	(50.0)	(50.0)	38.5	31.8
お姉ちゃん	(47.7)	43.2	(50.4)	38.5	18.2
お兄ちゃん	41.4	(50.0)	(45.3)	30.8	36.4

女 子

	(%)				
	小・中・高・短大卒	大卒・大卒以上	小・中・高卒	短大・大卒	大卒・大卒以上
おじいちゃん	(75.9)	75.6	75.6	(83.3)	82.6
おじやん	(59.0)	57.1	59.6	54.2	(61.9)
お父さん	(59.0)	53.0	(59.9)	45.8	45.5
お母さん	(53.8)	47.7	52.2	45.8	(69.6)
お姉さん	(53.7)	41.7	(52.8)	25.0	52.2
お兄さん	(51.9)	40.0	(51.4)	37.5	39.1
お姉ちゃん	(50.6)	41.9	49.7	(50.0)	47.8
お兄ちゃん	(44.4)	40.5	(43.9)	41.7	40.9
お姉ちゃん	(39.0)	38.4	38.6	(41.7)	34.8
お兄ちゃん	(37.7)	36.9	37.8	37.5	(40.9)

(「抵抗なく言える」割合)  
1-10位まで

表III-15 言葉の意味の理解度×両親の学歴

男 子

(%)

	父 の 学 歴		母 の 学 歴	
	小・中・高・短大卒	大卒・大卒以上	小・中・高卒	短大卒
ベース	(29.0)	24.3	28.5	(30.8)
ショート	(27.1)	25.7	26.5	30.8 (36.4)
コントーム	(28.5)	19.2	26.0	(38.5)
小 管	(26.7)	23.3	26.1	23.1 (33.3)
スティック	(26.8)	16.2	25.4	(30.8) 13.6
エンド	(24.1)	17.6	23.1	(30.8) 18.2
マウスピース	(21.9)	20.3	21.5	(23.1) 22.7
エレキ	(23.1)	20.5	21.8	23.1 (28.6)
イヤホン	(23.3)	21.6	22.8	23.1 (27.3)
スピーカー	(22.3)	17.8	22.0	15.4 (22.7)

女 子

(%)

	父 の 学 歴		母 の 学 歴	
	小・中・高・短大卒	大卒・大卒以上	小・中・高卒	短大卒
直起	(44.4)	40.9	(45.8)	20.8
直中起	(37.2)	28.4	(37.7)	16.7
ストレート	(33.2)	28.4	(34.1)	25.0
立直	(30.6)	29.9	(32.7)	12.5
同性愛	(28.3)	22.7	(28.2)	25.0
コンドーム	(28.8)	21.6	(29.0)	16.7
リード	(22.3)	20.5	(23.1)	12.5
ソラ精	19.5	(24.1)	(21.1)	17.4
エイズ	17.1	(21.6)	(18.2)	16.7
ペニス	(17.1)	15.9	(17.3)	16.7

(「人に説明できるくらいよく知っている」割合)  
1~10位まで

## 第IV章 生徒たちの異性体験



高校生時代は大学生時代と並んで、一生のうち最も性的関心や欲求が盛んな時期と言えるだろう。しかし困ったことに高校生時代は、身体的成熟と心理、社会的な成熟の間にアンバランスがある。その点で多少心理的社会的に成長を遂げた大学生に比べると、はるかに危なっかしい存在でもある。

確かに第II、III章で見て来たような、十分すぎるほどの性知識と、それから派生したと思われる進んだ(または進みすぎた)性意識や性に対する意見を目にしてみると、彼らがどのような性体験、性行動に走っているのかがわれわれを不安にさせるものがある。また実際に最

近の高校生に関するマスコミの報道やわれわれが日頃、校内、公園、車中、路上で見聞きする高校生の姿は、若者の性行動の現状への不安をいっそうつのらせる。本来この時期は、自分の内側の性の欲求にどう対応し、また異性関係における自己の役割や、将来の結婚相手との間に相互の愛情関係が育つための基盤をつくるべく、重要な課題を負わされた時期である。そこで本章では、高校生が日頃、異性に対してどのような関心を抱き、どれほど接触の機会をもっているか、過去の体験をも視野に入れながら探ってゆきたい。

# 1. 初恋の頃

まず、高校生たちが異性に対して過去にどのような関心や経験を経て今日に至ったのかたずねてみた。表IV-1は初恋すなわち「異性に対して初めて特別な関心や感情を持った時期」を示したものである。男子で早い子は幼稚園の頃から、中学2年生までに84.4%が初恋を経験する。そのピークは小学校4・5年生で18.7%と初恋はかなり早くやって来るものらしい。女子では幼稚園の頃から中学1年

生までに、84.8%経験し、やはり小学校4・5年生が25.3%と一つの山となっている。また、男子は中学2年、女子は中学1年までにはほとんどの生徒が初恋体験を味わっている。この男女差の1年は、身体的発達の違いから来るものだろう。では、初恋の対象はどのような相手だったのか。表IV-2が示すように、男女とも約82%が同級生である。学校生活は異性体験にとって重要な場であるようだ。

表IV-1 異性に対して特別な関心や感情を初めて持った時期

		幼稚園 の頃	小学校 4年生	4・5年	5年	中学	1年	2年	3年	4年	5年	経験が ない
年齢	性別	13.4	13.6	(18.7)	15.3	12.5	10.9	3.3	2.8	0.3	0.3	8.9
男 子		—	—	84.4	—	—	—	—	—	—	—	—
女 子		13.2	18.6	(25.3)	15.1	12.6	5.6	4.2	2.0	0.3	0.0	3.1
		—	—	84.8	—	—	—	—	—	—	—	—

表IV-2 異性に対して特別な関心や感情を初めて持った対象

対象	男	女
同級生	(82.4)	(82.7)
友人	4.1	13.7
親類	0.6	0.0
先生	2.2	2.8
先生の夫婦	2.8	1.1
先生の友人	1.7	1.7
近所の人	4.1	4.5
その他	3.0	1.7

## 2. 異性との交際

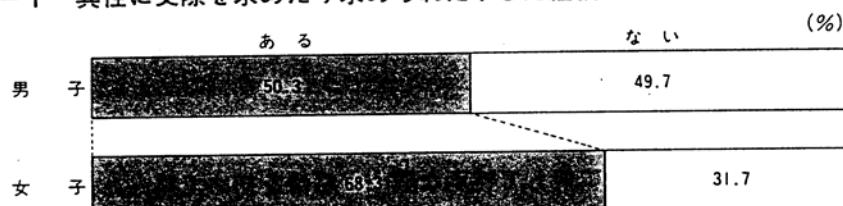
次に、異性への直接的行動、すなわち交際の実態を見ていきたい。図IV-1で「高校生たちがこれまでに異性に対し、どれくらい交際を求めたり求められたりした経験を持っているのか」をたずねたものである。そうした経験は男子で50.3%、女子で68.3%と意外に豊富である。では、「初めて交際を求めた時期」はいつ頃か。表IV-3で示すように、男女とも小学校6年生から高校1年生にかけて8~9割の生徒が経験している。表IV-4は「交際を求められた時期」で、男子は小学校4・5年生から中学3年生にかけ83.1%、女子は小学校6年生から高校1年生にかけ88.1%の生徒が経験している。幼稚園の頃に目ざめた

異性への気持ちを具体的に表現する時期とも言えそうだ。

表IV-5に「交際を求めた人数」を示した。1人が最も多く男女とも約半数。意外に純情とも言える。しかし中には5人以上という発展家もいて男子の11.9%、女子の6.0%がこれに当たる。表IV-6は逆に「求められた人数」でこれも1人が最も多い。しかし10人以上というモテモテ男(女)もいて、男子6.5%、女子4.5%となっている。相手の人数は、求めた場合より数値に広がりが見られる。

こうしてみると現代の高校生は、校内で、小学校4・5年生から高校1年生頃までに、ごく少数の異性に対して交際を求めたり、求

図IV-1 異性に交際を求めたり求められたりした経験



表IV-3 異性に初めて交際を求めた時期

	小学校5年 四年生	6年生	中学1年	2年生	3年生	高1年	2年生	3年生
男 子	8.6	14.3	(19.9)	19.0	12.4	16.2	4.8	4.8
女 子	5.7	12.2	15.4	(28.5)	14.6	17.9	4.9	0.8

められたりしながら将来の結婚生活の基礎となる体験をしてきたことになる。

そうした経過を経て、では現在、相手のいる生徒はどのくらいの割合か。図IV-2によれば、男子15.0%、女子20.3%と相手のいる生徒は予想外に少ない。校内や街角で見かける高校生のカップルの姿は、一部の高校生であって、多くの生徒たちは、異性への接触もない高校生活を送っているものらしい。この点をもう少し数値で追ってみよう。表IV-7は「現在つきあっている人」を学年別に見たものである。男女とも学年が上になるにしたがって、つきあっている生徒も多くなる傾向にある。しかしそれでも高3で男子18.3%、女子で23.2%でしかない。さらに表IV-8で成績別に見ると、成績の上位者・下位者に異性とのつきあいのある生徒が多い。成績の上位者は、学業にも異性とのつきあいにも積極的

で充実した高校生活を送っているらしい。一方下位者においては、学業で満たされぬものを異性とつきあうことで高校生活を送っている姿が想像される。

では、つきあっている対象を見てみよう。表IV-9から「同級生」が男子では60.7%、女子では60.6%と圧倒的に多い。次いで男子は「先輩・後輩」「部活動の仲間」、女子は「先輩・後輩」とともに「社会人」が21.1%と多く、男子に比べ、学校外の異性と積極的にかかわっている様子がうかがえる。次に表IV-10は、「交際の期間」をたずねたものである。1~6か月の交際期間が男女とも最も多い（男子42.0%、女子48.5%）。すなわち高校生の異性体験は校内で、比較的短いサイクルで、同級生や先輩・後輩・部活動の仲間とつきあったり、別れたりを繰り返しているものらしい。

表IV-4 異性に初めて交際を求められた時期

(%)

	小学4・5年 以前	6年	中学1年	2年	3年	高校1年	2年	3年
男子	13.5	14.9	(23.0) 83.1	18.2	13.5	8.1	6.1	2.7
女子	4.5	9.9	19.8	(23.3) 88.1	18.3	16.8	7.4	0.0

表IV-5 交際を求める人数

(%)

	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上
男子	(51.1) 83.8	20.7	12.0	4.3	4.3	7.6
女子	(48.4) 93.2	24.1	20.7	0.8	3.4	2.6

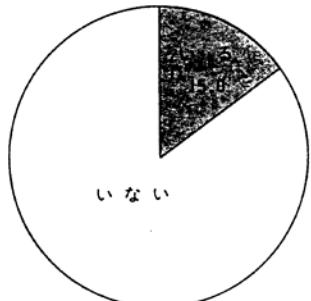
表IV-6 交際を求められた人数

(%)

性別	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	10人以上
男子	(27.6)	(22.6)	15.2	7.2	9.4	2.9	3.6	3.6	1.4	2.9	3.6
			82.0								
女子	(29.0)	(22.5)	12.0	11.0	10.5	5.5	1.5	2.5	1.0	1.0	3.5
			85.0								

図IV-2 現在つきあっている相手

(%)



男 子



女 子

表IV-7 「現在つきあっている人がいる」×学年

(%)

学年	1年生	2年生	3年生
1年生	15.9	12.8	(18.3)
2年生	17.6	20.0	(23.2)

(「いる」の割合)

表IV-8 現在つきあっている人がいる×成績

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
男子	(20.5)	18.5	7.4	13.4	(21.8)
女子	(34.5)	21.6	18.5	19.4	(23.2)

(「いる」の割合)

表IV-9 つきあっている対象

(%)

	男子	女子
同級生	(60.7)	(60.6)
知り合ひの近所の子	5.4	1.4
先輩・後輩	(17.9)	16.9
友達	5.4	0.0
部活動の仲間	10.7	4.2
先生	5.4	2.8
お年寄り	8.9	(21.1)
その他	10.7	4.2

表IV-10 つきあっている期間

(%)

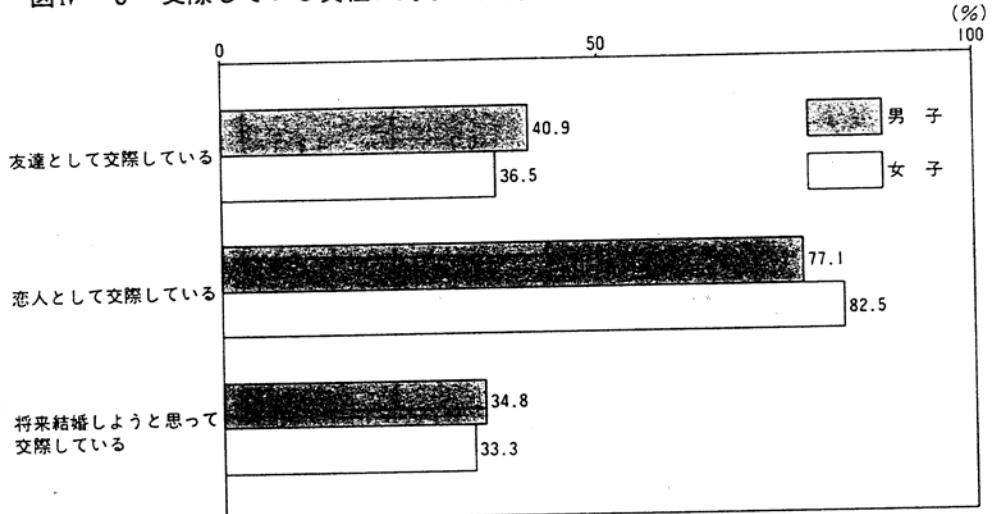
	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月
	(42.0)	10.0	16.0	6.0	4.0	0.0	4.0	0.0	18.0
		74.0							
	(48.5)	19.7	10.6	4.5	0.0	3.0	4.5	1.5	7.7
		83.3							

### 3. 異性への思い

そうした出会いと別れの繰り返しの生活を送る高校生に、つきあっている相手に対する「気持ち」をたずねてみた。図IV-3から「恋人として交際している」と思っている者が男子77.1%、女子82.5%と最も多い。つきあう期間は短いが、意識は「恋人」なのである。また表IV-11で学年別に見ると、1年生では、「ただの友達として」が最も多く、「将来結婚しようと思って」は、学年が上になるにつれて多くなる傾向にある。高校1年生の男子にとっては、結婚は遠い将来のことであるし、高校3年生には近い将来のこととして認識できるのであろう。

では、性的な関係を経験した後では、相手への気持ちはどう変化するのだろうか。図IV-4に示すように「ただ、友達として交際している」割合が減少し、「将来結婚しようと思って」の割合が高くなる傾向にある。とくに、女子においては、100%結婚しようと思っているようである。女子高校生が性的な関係を持つことは結婚をしたいという思いが強いからであり、男子の53.3%とは数値の開きが大きい。この意識の違いから、女子はしばしば被害者の立場に立たせられることにもなる。しかし全体的に見れば図IV-5で示すように将来への見通しは未知数なのである。

図IV-3 交際している異性に対する気持ち



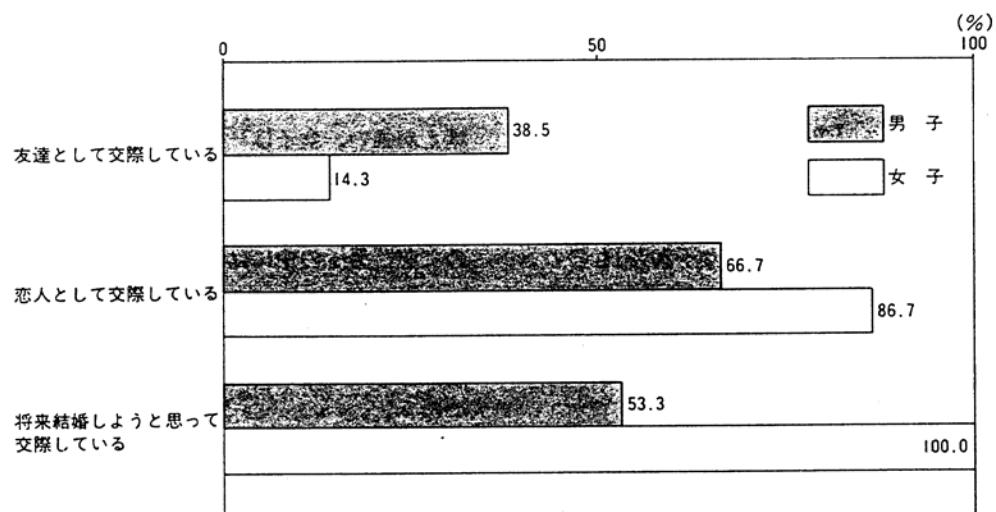
表IV-11 交際している異性に対する気持ち×学年

(%)

		1年	2年	3年
ただの友達として交際している	男子	(50.0)	31.6	46.7
	女子	(71.4)	28.2	41.2
恋人として交際している	男子	80.0	62.2	(87.5)
	女子	71.4	(87.2)	76.5
将来結婚しようと思って交際している	男子	0.0	42.1	(47.1)
	女子	22.2	33.3	(40.0)

(「はい」の割合)

図IV-4 交際している相手に対する気持ち(性的関係にある者)



図IV-5 交際している相手との将来の見通し

	卒業する以前に終わるだろう	卒業したら終わるだろう	結婚までいきそう	まったくわからない	(%)
男子	16.1	10.9	21.8	50.9	
女子	18.5	8.5	21.1	60.5	

## 4. 異性との接触体験

これまで異性との接触の経過を追ってきただが、ここでは、接触の具体的方法について見よう。図IV-6「交際している異性との接触体験」として「登(下)校と一緒にする」

「電話で話をする」「誕生日にプレゼントをする」「キスをする」「性的な関係を持つ」など10項目の接触の方法をあげ、現在異性とつきあいのある高校生にたずねたものである。男女とも「電話での話」「喫茶店でのおしゃべり」「誕生日のプレゼント」などのプラトニックな接触が中心のようではある。毎年冬が近くなると教室の片すみで、休み時間に熱心にセーターを編んでいる女子高校生を多く見かけるが、彼女たちの気持ちもうなづける思いがする。また電話での長話を嘆く親が多いが、この図からは当然であろう。

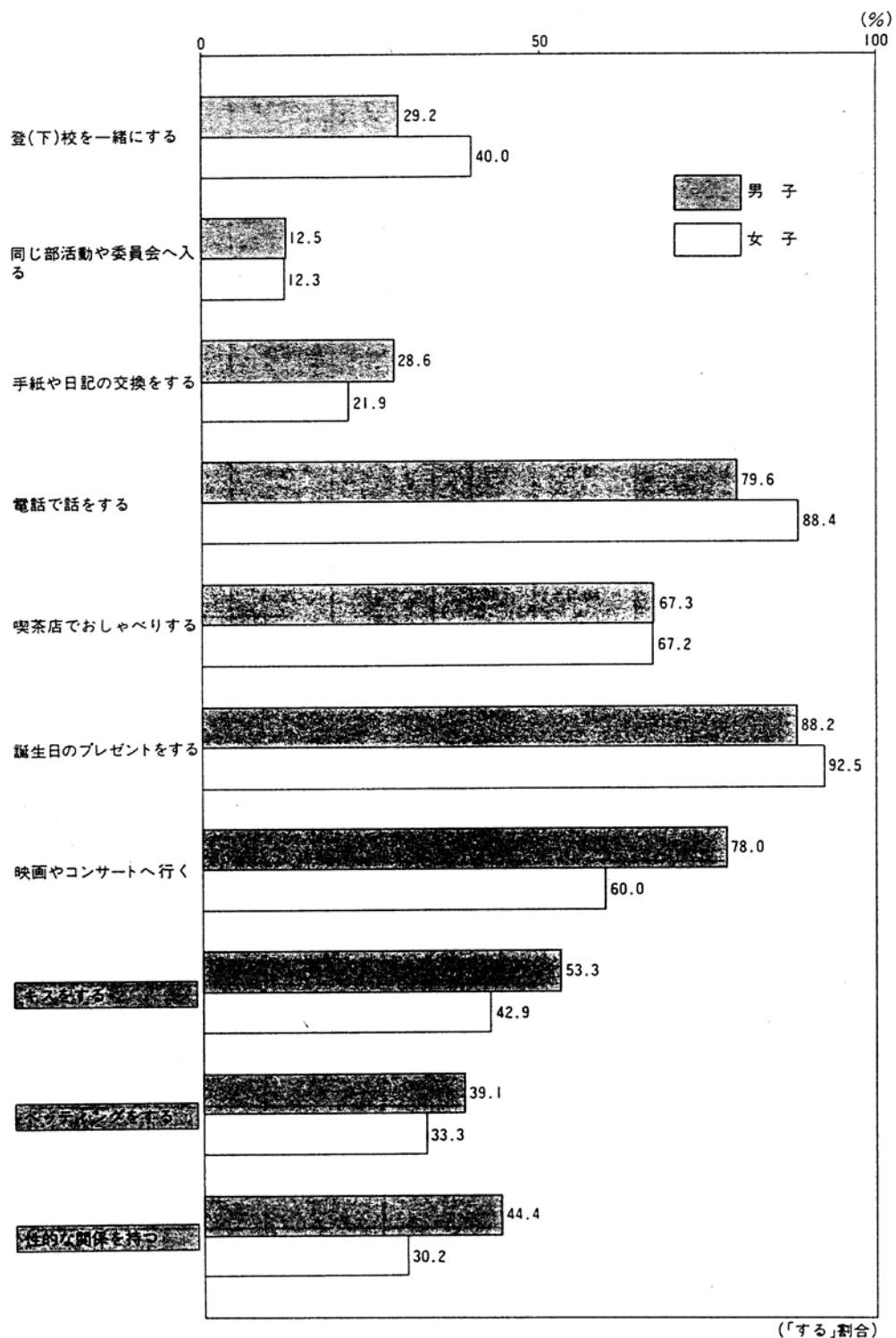
しかし他方では「キスをする」男子53.3%、女子42.9%、「ペッティングをする」同じく39.1%、33.3%、「性関係」44.4%、30.2%などの数字は、旧世代の人びとを驚かせるものだろう。図IV-2で見たように現在相手のいる者こそ少ない(男子15%、女子20%)ものの、相手ができれば3~4割は性関係までいってしまう。また表IV-12に見られるように、学年が進むにつれ接触の深さが伴われるが、と

くに女子の場合高3で急速に関係が深まる様子が気にかかる。とくにキス、ペッティング、性関係などは、数字が高3で急上昇している。

また表IV-13で成績別に見ると、図が示すように成績のよい生徒ほど、より多く性関係を持っていて、男子の87.5%、女子の50.0%にも達する。次いで成績の下の層が積極的で、いちばん臆病なのは成績が中の上の層である。

さて高校生がこのような交際をする場合、その費用はどうしているのか。高校生の小遣いには限度がある。異性と交際すると小遣いが必要になってくるという声をしばしば耳にする。図IV-7は、どちらが支払っているかをたずねた結果であるが、男子が支払っている傾向にある。では、彼らの本音はどうか。図IV-8で「支払いについての意見」をたずねてみた。「食事」「喫茶」「映画館などの入場料」について、男子は「自分が支払う」構えが強い。女子は「自分のものは自分で支払う」と考えている。高校生どうしの交際であれば、女子の意見が当然のように思われるのだが。男子の中には、異性との交際の資金を作るため、アルバイトに精を出している生徒もいる。なぜ彼らの中にこんな保守的な態度があるのだろう。

図IV-6 交際している異性との接触体験



表IV-12 交際している異性との接触体験×学年

(%)

	男			女		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年
登(下)校と一緒にする	20.0	(31.8)	31.3	(57.1)	46.5	13.3
同じ部活動や委員会に入る	(20.0)	13.6	6.3	(42.9)	7.3	11.8
手紙や日記の交換をする	(30.0)	27.3	29.4	14.3	(24.4)	18.8
電話で話をする	70.0	(86.4)	76.5	77.8	(90.7)	88.2
喫茶店でおしゃべりする	30.0	(77.3)	76.5	62.5	60.5	(87.5)
誕生日のプレゼントをする	80.0	87.0	(94.4)	(100.0)	88.4	(100.0)
映画やコンサートに行く	70.0	(87.0)	70.6	28.6	57.1	(81.3)
キスをする	10.0	63.6	(69.2)	25.0	36.6	(71.4)
ハグ・タッチする	10.0	(56.5)	30.8	25.0	29.3	(50.0)
性的な関係を持つ	10.0	(59.1)	46.2	25.0	26.8	(42.9)

表IV-13 交際している異性との接触体験×成績

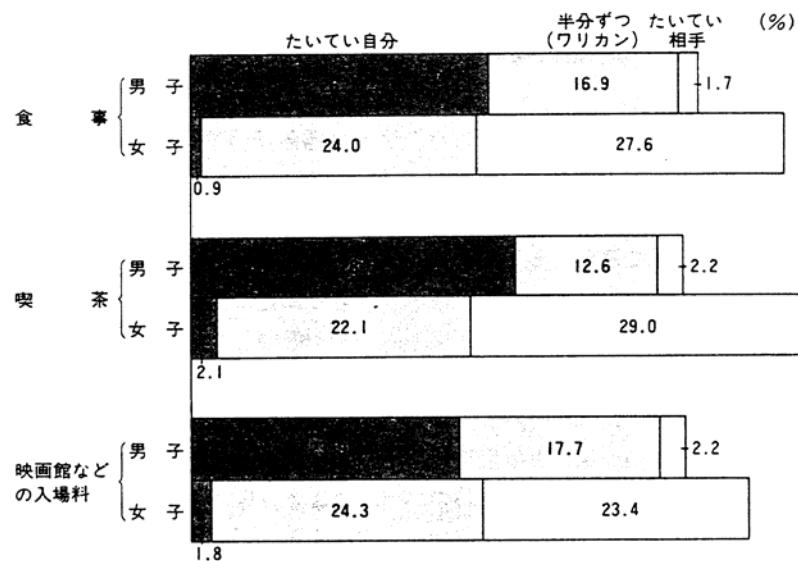
—直接的接触体験—

(%)

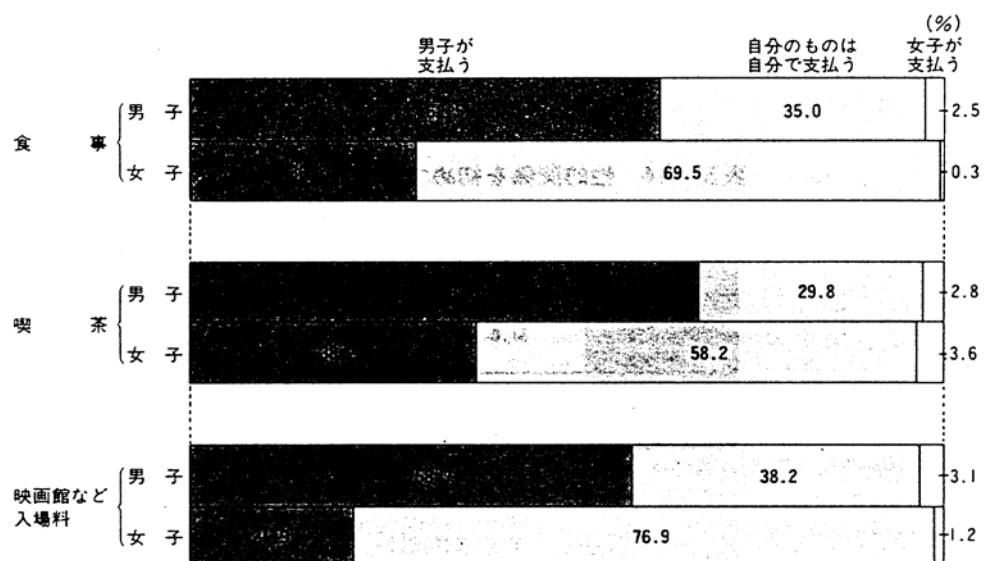
		上	中の上	中	中の下	下
		男	女	男	女	男
成績	男子	(85.7)	25.0	(59.1)	33.3	56.3
	女子	(87.5)	37.5	23.8	(50.0)	46.2
性的関係	男子	(87.5)	12.5	28.6	16.7	(37.5)
	女子	(62.5)	12.5	19.0	50.0	(38.5)
	男子	(87.5)	12.5	33.3	16.7	(50.0)
	女子	(50.0)	12.5	19.0	41.7	(38.5)

('する'の割合)

図IV-7 交際している異性との金銭関係の体験



図IV-8 異性と交際した場合の金銭関係の意見



## 5. 性体験と避妊

現在相手のいる高校生は予想外に少ないが、相手のいる高校生の相手との接触体験は、プラトニックな体験から直接的な性体験までかなり豊富であることを見て来た。そして比較的短期間の間に「キス」「ペッティング」「性関係」までに発展しているようである。とすればここで問題となるのが「避妊」だろう。

表IV-14「性関係を初めて持った時期」では、男子の31.6%女子の36.8%が実に中学生時代に体験している。また図IV-9「初めての時の避妊の有無」では男子の40.0%、女子の36.8%が避妊をしていない。図IV-10は「その後の性的な経験」だが、男子70.8%、女子80.0%が今まで続いているという。では、その際の避妊に対する対応はどうだろう。図IV-11から「まったく避妊していない」男子が29.4%女子は40.0%も存在する。高校生が妊娠し

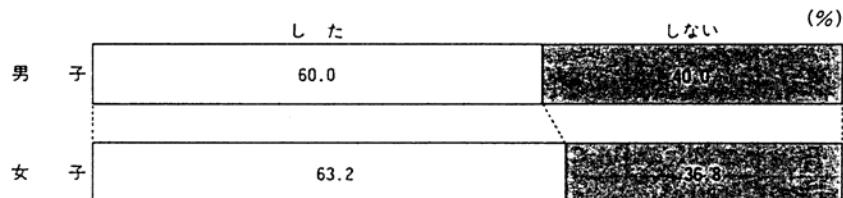
た場合、精神的・社会的に余りに犠牲が大きいように思える。では、何故避妊しないのだろうか。「避妊」についての正確な知識や方法を知らないことも一つの原因であろう。また若さゆえに衝動的な性行動に走りやすく、女子が妊娠した場合の重要性の自覚が足りないことも一つであろう。欧米のように、必要があればより具体的に避妊の方法を教えてくれる機関が必要になって来ていることが示唆されよう。(欧米では病院の産婦人科には若年層は出入りしにくいので、性教育協会がクリニックを付設したり、特別のクリニックを設置したり、学校で性教育担当の教師が教えることもある。この点については、第17期東京都青少年問題協議会報告「現代青少年と性をめぐる諸問題について——成熟ギャップをどう超えるか——(昭和63年3月)を参照されたい。)

表IV-14 性的関係を初めて持った時期  
(%)

	男子	女子
男子	31.6	68.4
女子	36.8	63.2

(体験者のうち)

図IV-9 初めての性的関係での避妊



図IV-10 その後の性的な関係の有無

	1回だけで 終わった	数回で 終わった	現在も 続いている	(%)
男 子	16.7		70.8	
女 子	10.0		80.0	

図IV-11 性関係を持つときの避妊をするか

—現在も性関係が続いている場合—

	いつも 避妊する	危険な時だけ 避妊する	まったく 避妊しない	(%)
男 子		29.4	29.4	
女 子		26.7	40.0	

## ●まとめ

青少年の性成熟は今日大きく前傾して来ている。昭和の初期に比べると、彼らは当時より2~3年も早く、身体的におとなになる。当然彼らは生物学的には自然な営みとして、異性に対する性的関心や性的欲求を備えるようになる。しかし、産業化社会の下で高学歴化した今日では、社会的に一人前になる日は逆に大きく後へズレ込む。その間に「成熟ギャップ」が生じる。今日中学生高校生時代は、生徒たちにとって自分の「性」に対して対応のむずかしい時期となっている。しかもこの点についての教育的対応は、はなはだ手薄であり、遅れが見られる。しかし今日の青少年の性問題を見ていると、早晚この点へ社会的に対応せざるを得ない状況が来ていることは否定できない。しかし性は他の教育的諸領域の中でも非常に扱いにくい領域である。これをどう扱い、性問題にどう対応したらよいか、その方策を探るためには多くの基礎資料が必要であろう。今回われわれの行った調査も、こうした意図からのものであった。

第I章から第IV章までに掲げられた調査結果から浮かび上がって来たことは、次の諸点である。

①生徒たちは自分の結婚をごく近い将来(男子24~25歳、女子22~23歳)のものととらえている。にもかかわらず、その準備のための教育(いわゆるペアレンティングや性教育)は現状でははなはだ不十分ではなかろうか。

②生徒たちの性知識は非常に進んでいる。彼らは大学生やおとなより性知識に敏感であるため、その用語の使用には抑制的であるが、知識は持っており、とくに女子はそうである。しかしその知識の内容はどうか。今回の調査はそこまでは探れなかったが、「知っている」が不十分もしくは不正確である可能性が大き

いのではなかろうか。

③高校生の性意識や性に対する意見はかなり進んだ(そのよしあしは別として)状態にある。しかし大学生と違って、その内容にはかなり危なげなものが感じられる。性に対する適切な(望ましい)態度を、いつ誰がどのようにして育てるべきか。とくに学校教育のプログラムの中で広義の性教育の検討がさしつけ必要になって来ているのではなかろうか。

④生徒は性に関する悩みをほとんど誰にもうちあけないか、またはせいぜい友人にしかうちあけない。適切な相談機関や機会の配置が必要ではなかろうか。

⑤生徒の性に関する情報は、主としてマスコミや友人からである。しかし貧弱とは言え保健体育の授業で得られる知識は、それでも彼らの中に重みをもっているかに見うけられる。性に関する教育の機会をどう設ければよいのか。保健体育以外にどの教科が担当すべきか、例えば家庭科はどうか、などの検討が必要ではなかろうか。

⑥性知識や性意識が進んでいるのに反して、彼らの対異性行動(異性とのつきあい)は貧弱である。しかし、全体の2割がつきあっている相手をもち、性関係に進んでいる者も少なからぬ割合にある。中学時代に性関係を持った者も(性関係を持っている生徒の中で)3分の1に達する。しかも避妊をしていない者もいる。また性関係と結婚との関連は男子のほうが意識していないなど、生徒たちの対異性行動には問題が見うけられる。

⑦こうした状況に対してどう対応すべきかは、社会、学校、地域、家庭の今後の重要な課題であり、また今回のような基礎調査を精力的に行うことが必要であろう。